

○令和元年度 国立大雪青少年交流の家教育事業

「全国高校生体験活動顕彰制度」(探求アワード) R1.5.10(金)～1.12(日)



◆目的

- ・宿泊を伴うオリエンテーション合宿を通して、ものごとを探究する姿勢、主体的に取り組む態度、課題に向き合う力などを養成する。また、地域での実践活動においては、多様な人々と協働しながら地域にある課題解決に向けた取組みを行うことで、地域や自然環境に愛着を持ち、新たな価値を創造する高校生を育成する。
- ・令和2年度から、全国の国立青少年教育施設で実施するにあたり、当施設において試行実施し、本制度の成果を検証する。

◆参加実績

- ・北海道 上富良野高等学校  
第3学年 29名  
(男子13名、女子16名)

◆グループテーマ

- 自然・環境コース(11名)
- 食・農業コース(10名)
- 歴史・文化コース(4名)
- 商工・観光コース(4名)

◆プログラム

1. ガイダンス(5/10)・・・(50分)  
事業担当職員より、本事業のねらいやスケジュールについて説明を受け、活動の見通しをもった。
2. 講話「地域づくりの実践」(5/10)・・・(50分)  
学生時代に地元を離れた経験から、地域の魅力に気付き、家業の温泉宿の経営や、観光協会等の仕事をとおして、地域づくりに携わるようになった青野範子氏より、夢や目標をもつことの大切さや地域づくりの魅力を学んだ。
3. フィールドワーク①「地域の魅力を発見」(6/13)・・・(50分×6)  
4つのテーマごとに講師(役場職員、地元農家、文学館学芸員、観光ガイド)と一緒に町内を巡り、地域の魅力について学び、地域が抱える課題について考えた。(事前指導50分×5)
4. 講義・演習①「地域理解」(6/13・14)・・・(50分×6)  
フィールドワークで学んだことや考えたことを、グループごとにまとめたプレゼンテーションを行い、さらに学びたいことを考えた。
5. 講義・演習②「課題解決の基礎」(6/24)・・・(50分)  
グループごとに地域課題の絞り込み作業を行った。



6. 講義・演習③、発表①(6/27)・・・・・・・・(50分×2)  
テーマごとに、講師の4人に相談しながら、実践活動を想定したフィールドワーク②の計画を立て、活動予定をグループ発表した。

7. フィールドワーク②「地域課題の探求」、発表②(7/2)(50分×4)  
実践活動に向け、現地調査やアンケートなどの取材活動を行い、個人ごとに振り返りと今後の実践活動の展望について発表した。

8. 実践活動・報告書作成(7月4日～11月7日)・・・・・・・・(50分×20)  
グループで話し合いや町内での調査活動が続けながら、地域貢献のための具体的な取組を進めた。例としては、農家のために野菜の魅力を伝えるポスター作り、観光スポットを紹介するガイドマップ作りなど、高校生のアイデアで実践活動に取り組み、その経緯や成果を報告書にまとめた。



9. 講義・演習④(10/15)・・・・・・・・(50分×2)  
効果的なプレゼンテーションの方法について、外部講師から指導を受け、分かりやすく伝えるためのポイントや工夫について学んだ。

10. 審査会リハーサル(12月2日)・・・・・・・・(50分×3)  
審査会を想定した発表を予行し、審査員役の外部講師や職員との質疑応答の練習、発表内容や方法についての助言を得た。



11. 町民と語る会(12月6日:町保健福祉総合センター)・・(50分×3)  
町民に審査会用の発表を行い、各テーブルに分かれ、地域の未来や町の発展のために必要なことについて、意見交流を行った。

12. 地方審査会(12月12日)・・・・・・・・(50分×3)  
発表と質疑応答を合わせて、1グループに15分の持ち時間で、自分たちが地域のために実践してきた活動や意見を発表した。



13. 全国審査会(1月12日:機構本部)  
地方審査会で選ばれた1グループが参加。審査を受け、審査委員長賞を受賞。

#### ◆事業に関わった関係者、協力者の声

- ・何度も発表の場面を経験することで、生徒の多くが人前での発表することに慣れ、成長を感じた。(教諭)
- ・地域の方々に高校の取組を知っていただけて、学校との協力関係を深められた。(教頭)
- ・地元の高校生が、地元のことをこんなに一生懸命に考えていて、とてもうれしい。(町民)
- ・高校生が町の魅力を外部に発信したり、町づくりに意見を出したりすることは、町の魅力を高める。(町民)

#### ◆高校生の声(地方審査会後のアンケートより)

- ・自分が知らなかった町の良さを知ることができた。
- ・ここまで、1から準備して発表したことは無かったので、知ることができて良かった。
- ・3年生がこの活動をするのは忙しい。でも楽しかった。
- ・今後も続けてやって頂ければと思う。明確な目的や進め方などを、もっと事前にしっかり行いたかった。
- ・活動は良かったが、チームの連携が取れなかった。できれば、もっと時間がほしかった。

#### ◆事業運営のツボ・工夫・反省

- ・新しい学習指導要領に盛り込まれた観点である「主体的・対話的で深い学び」について、施設が学校と連携して、学習活動の支援・協力を行うことができた。
- ・高校生が地域の人々と関わりながら、地域の特色や良さ、課題に目を向け、ものごとを探究する姿勢、主体的に取り組む態度、課題に向き合う力を、個々に高めていた。
- ・事前の外部の協力者や支援者との調整、校外学習での引率や指導の体制への協力を積極的に行った。
- ・充実した学習活動を進めるために、学校側と打ち合わせを頻繁に行った。
- ・学校の協力を得ながら、顕彰制度のカリキュラムを進めてきたが、授業時数や打ち合わせの回数を相当に要したので、今後はより効率的な進め方を目指して実施していきたい。

#### ◆事業運営費

|                     |          |
|---------------------|----------|
| 業務委託（指導・コーディネート）6名分 | 371,252円 |
| 参加者食事代・シーツ代         | 75,611円  |
| 旅費（担当者打ち合わせ）        | 52,420円  |
| 消耗品（体験活動費）          | 32,940円  |
| 燃料費（公用車）            | 32,062円  |
| 通信運搬費               | 1,296円   |
| 合計                  | 565,581円 |

※今年度は試行実施のため、受益者負担はなし。